

第261回鳳雛講座 令和8年1月21日(水)

21日(水)に今年度最後となる8回目の鳳雛講座を行いました。講師は、北秋田市にある武石紙器株式会社代表取締役の武石美久さんが務めてくださいました。自らの行動で道を切り開いてきた武石さんのお話は、参加した一中生の心を大きく揺り動かした様子でした。

現場で働く職業人から貴重なお話を聞くことができる、他校にはない一中の鳳雛講座。来年度も引き続き開催していく予定ですので、一中生にはぜひ、積極的に参加することで将来における選択肢を広げてほしいと思います。

○講話の内容

・ 武石さんと箱屋の仕事について

武石さんは、大館市内の美容室に入社し、美容師としてのキャリアを積んだ後、家業を継ぐ形で箱屋としてのキャリアをスタートさせた。大好きな美容師の仕事を手放すことに大きな葛藤があったが、「箱屋さんが無くなったら困る」と言われたことで、人に必要とされていることを実感し、箱屋として働くことを決めた。

箱は人々の生活に必要な不可欠で、身近なものであるが、箱屋の存在はあまり知られていない。しかし、箱屋は日本の物流を支える大切な職業であり、箱を開けたときのワクワク感や箱を開ける人の喜ぶ顔を想像しながら丁寧に箱を作っている。武石紙器株式会社では、貼箱と呼ばれるお菓子や曲げわっぱなどを入れる高級な箱をはじめ、段ボール箱や壊れやすいものを入れるための段ボール加工品などを作っている。箱は、裁断、野線、角切り、折り、テープ止め、紙貼りなどの多くのステップを踏んで製作されている。武石紙器株式会社では、顧客の要望に合わせて全てオーダーメイドで箱を作っている。

コロナ禍で仕事が大きく減ってしまった際には、地元のイベントでの営業や SNS での発信に力を入れ、今では多くのお客様に愛される箱屋となっている。

・ 終わりに

夢はまだなくても大丈夫。大切なのは自分で考えて選ぶことであり、苦しいときほど1歩を踏み出し、行動してみてほしい。そうすることで明るい未来が開けると信じている。

○生徒の感想から

- ・ 初めて箱屋という職業を知り、日本のものづくりや物流を支える上でとても重要な役割をしている職業だと思った。また、思いを思いのままに留めるのではなく、行動に移していきたいと思った。
- ・ 思い切って挑戦してみることで、明るい未来が開けることが分かった。
- ・ 箱屋の仕事にはたくさんの細かいステップがあることが分かった。また、自分から行動することで、たくさんの知識や経験を得られることが分かった。





